

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

(※) は原著が英文 (和訳した題名を掲載)

| 種別 | 専攻 | 申請者名 | 論文題目 |
|------------------------------|----|-------|---|
| 2011年7月25日付学位授与者 (1名) | | | |
| 論文 | 化学 | 岩崎 正興 | Fe/ゼオライト触媒を用いた NH ₃ 選択触媒還元による窒素酸化物除去 (※) |
| 2011年7月29日付学位授与者 (1名) | | | |
| 課程 | 生化 | 多田 健志 | 染色体凝集因子コンデンシンのクロマチン局在機構の研究 |

人事異動報告

| 異動年月日 | 所属 | 職名 | 氏名 | 異動事項 | 備考 |
|-----------|----|------|---------------|------|----|
| 2011.7.31 | 化学 | 助教 | 縫田 知宏 | 辞職 | |
| 2011.8.31 | 化学 | 助教 | SCHNEIDER UWE | 辞職 | |
| 2011.9.1 | 化学 | 特任助教 | YOO WOO JIN | 採用 | |

理学部紹介用しおりの新シリーズ

広報委員会

理学系研究科・理学部広報委員会では、前回の「ノーベル賞受賞記念しおり」に引き続き、東京大学を見学に来る中高校生を対象に、理学部 10 学科の周知を図るため、「理学部 10 学科イラストしおり」と「理学部各学科ゆかりのある教授しおり」を配布することになった。前者では各学科の研究対象をイラストで表現し、後者では各学科の過去の実績・歴史を紹介することにより、理学部新旧のイメージを喚起している。



理学部 10 学科イラストしおり



■ 山川健次郎

会津藩出身で白虎隊に入隊していた。国費留学生に選ばれ、米国で物理学を学んだ。東京大学の教授補を経て、1879 年日本人初の物理学の教授となった。分光器による太陽スペクトルの観測などの研究業績を残した。その後、東京帝国大学、京都帝国大学、九州帝国大学の総長などを務めた。



■ 和田維四郎

若狭国小浜藩の貢進生として開成学校で学び、鉱物学では日本人初の東京大学教授となった。地質調査の必要性を政府に説き、ドイツ人地質学者ナウマンと地質調査所を建議して初代所長となり、鉱山局長も兼務した。また、八幡製鉄所の建設に奔走し、長官を務めた。鉱物コレクションは世界的に有名である。



■ 大森房吉

東京帝国大学地震学講座教授。余震頻度が、時間とともに反比例して減少していく事実の発見 (余震の大森公式)、震源距離が初期微動継続時間に比例する事実の発見 (震源距離の大森公式) をはじめとして、明治・大正期の地震学に大きな業績を残した地震学者である。



■ 小平邦彦

複素多様体論を創始し、代数幾何・複素関数論・数理物理等に大きな影響を及ぼした。1954 年、日本人として初めてフィールズ賞を受賞、学士院賞・文化勲章・Wolf 賞も受賞した。プリンストン大学教授兼高等研究所研究員、ジョンズ・ホプキンス大学教授、スタンフォード大学教授、東京大学教授を歴任した。

第20回東京大学理学部公開講演会のお知らせ

広報委員会

理学の魅力を伝えるため2002年に始まった東京大学理学部講演会も回を重ねること20回を迎えました。今回は、分子から個体レベルまでの理解を目指す植物学、原子の謎に迫る物理学の最前線を走る研究者による講演に加え、震災を経た社会における基礎科学研究のありようを考えるパネルディスカッションを行います。さらに、講演に先立って、声楽家による音楽会を開催します。

「反物質」早野 龍五（物理学専攻 教授）

「子どもの頃の興味から始めて、実際に植物学者になるまでの話」塚谷 裕一（生物科学専攻 教授）

パネルディスカッション：司会 横山広美（広報・科学コミュニケーション 准教授）

音楽会：菊地美奈（ソプラノ）二期会会員／飯田俊明（ピアノ）／牧千恵子（ヴァイオリン）／ミヤック（アコーディオン）

日時 2011年10月30日（日）13:00～17:30（12:00開場） 中継 インターネット配信を予定。

会場 東京大学本郷キャンパス 安田講堂

主催・問い合わせ先 東京大学大学院理学系研究科・理学部広報室

入場 無料。事前申込不要。どなたでもご参加いただけます。

TEL：03-5841-7585 E-mail：kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp

定員 700名（当日先着順）

URL：http://www.s.u-tokyo.ac.jp/PL20

あとがき

宇宙で最も多い元素は、言うまでもなく水素で、2番目のヘリウムを飛ばすと、3番目に多い元素は、酸素である。よって水素と酸素が結びついてできる「水」は、宇宙に多い物質のはずで、じっさい宇宙のあちこちから、水分子の回転遷移にともなう波長1.36 cmのメーザー電波が観測されている。とはいえ液体の水

が大量に存在するのは、地球の著しい特徴だろう。人間を含めて生物にとって水は不可欠だが、ありすぎると恐ろしいことになる。3月の大震災・津波に続き、7月末には新潟県で大洪水が、また9月初めには紀伊半島で、台風12号による未曾有の大水害が起きてしまった。先日、行きつけの新潟県南魚沼市を尋ねてみる

と、山肌があちこち地滑りを起こし、川や沢の流路がすっかり変わった場所もあり、コンクリートの頑丈な橋が流されるなど、7月豪雨の爪痕はまだ生々しいものがあつた。水は、多過ぎても少な過ぎても困ってしまう。水分子に炭素原子2個と水素原子4個がくっついたシロモノも、「適量」が難しい。

広報誌編集委員長 牧島 一夫（物理学専攻 教授）

第43巻3号

発行日：2011年9月20日

発行：東京大学大学院理学系研究科・理学部

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

編集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会（e-mail：rigaku-news@adm.s.u-tokyo.ac.jp）

牧島 一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp

広報・科学コミュニケーション：

井出 哲（地球惑星科学専攻）ide@eps.s.u-tokyo.ac.jp

横山 広美 yokoyama@sp.s.u-tokyo.ac.jp

野崎 久義（生物科学専攻）nozaki@biol.s.u-tokyo.ac.jp

HP担当：柴田 有（情報システムチーム）

加納 英明（化学専攻）hkano@chem.s.u-tokyo.ac.jp

shibata.yuu@mail.u-tokyo.ac.jp

清水 正一（総務チーム）shimizu.masakazu@mail.u-tokyo.ac.jp

HP & ページデザイン：宇根 真（情報システムチーム）

小野寺正明（広報室）onodera.masaaki@mail.u-tokyo.ac.jp

une.makoto@mail.u-tokyo.ac.jp

印刷：三鈴印刷株式会社